

# 昭和の男は古い

ポストコロナの職域がん対策 — vol.16



「人生100年時代」の到来といっても、100歳以上の日本人（約9万人）のうち、男性は1割にすぎません。男性の私が100歳まで生きる確率は5%程度と正直、悲観的。しかし、私と同じ1960年生まれの女性が100歳まで生きる確率は17%、1980年生まれの女性では20%ですから、十分に「狙える目標」です。現実には、「女性の人生100年時代」と言うべきかもしれません。

平均寿命も女性の87歳に対して、男性では81歳と大きな差があります。寿命の男女格差は日本人に限った話ではありませんが、理由として、女性の方が、健康意識が高い点も指摘されています。たしかに、体に気を遣うのは「男らしくない」と考える昭和世代の日本男性は少なくないようです。

少し話がそれますが、私の実家は「中川酸素」という社員数20名ほどの小さな会社を東京の月島(築地の近く)で営んでいました。溶接や医療向けではなく、築地市場の巨大な生け簀で高級魚を活かすために使う酸素を一手に扱っていました。

独占的なニッチビジネスで、それなりに儲かっていたようですが、私が小学生のころから築地市場の移転が

取り沙汰されていました。私が酸素屋の社長ではなく、がん治療の専門医になったのは市場の移転問題のためだと言えるのです。

ちなみに、幼稚園は仏教系で、「南無阿弥陀仏」を唱えていました。小学校からはカトリック系で、カトリック教育を受けました。6歳にして「改宗」したわけですが、阿弥陀仏は一神教的色彩があるせいか、本人はあまり違和感を覚えませんでした。

浄土真宗の浄土や往生、キリストの受難や復活といった教えは、必然的に生と死を考えさせます。がん医療の道に進んだ背景には幼少期の宗教体験があったと思います。

さて、子どものころ、社員さんのトラックに乗せられて、よく市場に行ったものでした。仕事が終わると大人は仕事途中で居酒屋へ行き、タバコを吸いながら大酒を飲むのがお決まりのパターン。健康的な生活など、「男らしくない」、「カッコ悪い」とみなが公言していたことを覚えています。病気の早期発見どころではありませんから、がんや脳卒中で亡くなった社員も多く、結果的には会社は売却となってしまいました。

## 寿命の男女格差と健康意識の違い

日本人の平均寿命



女性

87歳

男性

81歳



▶ 女性と男性では平均寿命に大きな差がある。

理由の一つとして、「女性の方が健康意識が高い」点が指摘されている。

出典：厚生労働省「令和5年簡易生命表の概況」

「体に気を遣う」「健康的な生活」などは「男らしくない」と考える昭和世代の日本男性は少なくないようだ。

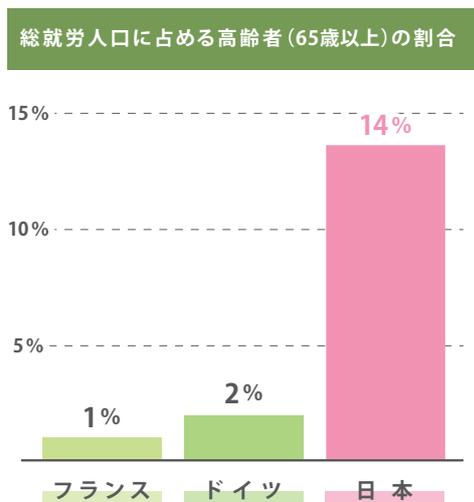


欧米諸国と異なり、単一民族のまま成熟社会をめざした日本では、若い移民の労働力に期待はできませんから、高齢者が働かなければ、経済成長も社会保障制度の維持もままなりません。日本では、総就労人口の14%近くが65歳以上の高齢者ですが、ドイツでは2%、フランスでは1%にすぎません。今後、私たちは70年、いや、できれば80年間働ける体をキープすることが努力義務になっていくと思います。

一方、がんは細胞の老化といえる病気ですから、働く世代にがんが急増することになります。ただし、乳がんと子宮頸がんは老化とは別の理由で若い頃から増えます。日本人男性の3人に2人、女性でも2人に1人が生涯にがん罹患しますが、55歳までは女性の方に多いことも大切なポイントです。

健康を意識し、がんを避けながら、長く働ける体を保つこと。これは自分と家族を大切に、社会に貢献するステキな生き方だと言えるでしょう。

## 高齢者の労働



高齢者が多く働く日本では、経済成長、社会保障制度の維持のためにも、**今後は70年、80年間働ける体を維持することが重要となる。**

## 体に気を遣い、健康的な生活を送ること

- ・細胞の老化といえる病気である「がん」
- ・若い頃から増える「乳がん」「子宮頸がん」

**女性の社会進出や少子高齢化が進む日本では、働く世代にがんが急増する。**

体調に気を配り、健康的な生活を維持することは、社会貢献にも、自分と家族を大切にすることにもつながる



中川 恵一 (がん対策推進企業アクション アドバイザリーボード議長)

東京大学大学院医学系研究科 総合放射線腫瘍学講座 特任教授、厚生労働省 がん検診のあり方に関する検討会構成員、がんの緩和ケアに係る部会座長、文部科学省がん教育のあり方に関する検討会委員など。

東京大学医学部医学科卒業後、東京大学医学部放射線医学教室専任講師、准教授を経て現職。緩和ケア診療部長、放射線治療部門長などを歴任。著作には「がんのひみつ」「コロナとがん」などがんに関する著書多数。日本経済新聞でコラム「がん社会を診る」を連載中。

YouTube

「オトナのがん教育」講座 「教えて中川先生!がんって何?がんになっても働けますか?」

好評配信中!

